

牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染黒毛和種牛に 認められた1型糖尿病の1例

高橋真紀[†] 清宮幸男 古川岳大 関 慶久 八重樫岳司

岩手県中央家畜保健衛生所 (〒020-0173 岩手郡滝沢村滝沢字砂込390-5)

(2008年7月2日受付・2008年9月11日受理)

要 約

牛ウイルス性下痢 (BVD) ウイルスに持続的に感染していた16カ月齢の黒毛和種雌牛が消瘦し、高血糖、糖尿およびケトン尿を示した。血漿耐糖能 (糖消失率; 0.25) およびインスリン濃度 (2.7~4.9 μ U/ml) はともに著しく低下した。主要な病理学的変化は膵島の容積と総数の減少であり、少数の膵島における膵島細胞の空胞変性を伴っていた。同変性細胞の細胞質に少量のアルデヒドフクシン陽性顆粒あるいはインスリン抗原が存在した。以上の結果から、本病は1型糖尿病と診断された。——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス、牛、1型糖尿病。

----- 日獣会誌 62, 299~302 (2009)

[†] 連絡責任者：高橋真紀 (岩手県中央家畜保健衛生所)

〒020-0173 岩手県滝沢村滝沢字砂込390-5 ☎019-688-4111 FAX 019-688-4012 E-mail: maki-t@pref.iwate.jp